

平成 26 年度の指定管理者評価委員会で指摘・提言を受けた項目の取組み状況

評価項目	評価基準	評価委員の指摘・提言等	改善のための対応方針	次年度以降の事業計画等への反映内容	実施した具体的な対応・取組み状況
I 提案の履行状況に関する項目 (1) 施設の設置目的及び管理運営方針	① 社会教育施設としての設置目的に合致した管理運営が行われているか ② 府が提示した管理運営方針及び事業者が提案した管理運営方針に基づき管理運営が行われているか	① 利用者の利用のねらいと目的を明確にし、成果を持ち帰れるようにすることが大事。 ② 学校訪問の目的をはっきりさせ、訪問の質を上げることが大切。	① 心身ともに健全な青少年育成を図ることができるよう、事前打ち合わせ等の際に利用団体を十分にサポートする。 ② 具体的なプログラムの提示など、訪問の質を向上させる。	① 事前打合せの際、利用者のねらいと目的をしっかりと聞き出し、利用当日は十分にサポートするとともに、成果がどうだったかの聞き取りも行う。 ② 学校訪問の時期や対象を洗い直し、ニーズの把握とそれに対応したプログラムを提案するなど、運営に活かす。	① 打合せの際には利用者の狙い、目的をできるだけ詳しく聞きだし、終了後、口頭にて成果の聞き取りを実施している。 ② 学校向けプログラムの見直しを行う。営業は学校だけではなく各市町村の校長会への説明と、次年度向けの施設案内送付を検討している。
	① 指定管理者・団体としての社会貢献活動、環境活動、法令順守などの取組みの状況	・ 専門スキルを普及させることこそが社会貢献活動であり、ここに地域活性化の視点を入れてしまうと目的が不明確。専門スキルの普及＝社会貢献活動という枠組みを作る必要がある。 ・ 法令順守については、業務フロー、マニュアル化、チェックリストの作成など、目に見える形で体制を整備することが重要。	・ 学校等への体験活動プログラムの出前講座を推進する。 ・ 施設設備の管理について、実施体制を可視化する。加えて、定期の業務報告において点検結果の内容の報告を求める。	・ 職員の専門スキルを生かして、出前講座の企画を行い、学校等での実施を推進する。 ・ 施設設備の管理については、担当の明確化、チェックリストの作成と徹底など、体制作りを整備し実施する。また、府教委への報告は迅速、確実に行う。	・ 8月より、要請のあった学校等において4件の出前講座に出向き、自然の家での体験プログラムを行った。今後も実施予定。 ・ 施設設備の管理・保守においては、担当の明確化を行い、確実に実施している。また、月1回の自主点検を行い、不備があれば早急に修繕している。
(2) 平等な利用を図るための具体的手法・効果	① 事業等の実施において施設の設置目的に合致した平等利用を担保しているか。	平等利用ということについては、利用者の平等のほか、情報が届くべき人に届いているかという観点も重要。	利用者の特性に応じた利用案内、サービス案内、広報先等の情報提供方法・手段を工夫する。	既存の広報に加え、広く府民に情報が提供できるように学校関係への広報を広げ、ネットへの情報提供を推進する。	学校関係へは送便などを活用した。また、Facebook や「いこーよ」などのネット配信からの広報も積極的に実施した。
(3) 利用者の増加を図るための具体的手法・効果	① 年間の広報宣伝活動は適切に実施されているか ② 利用拡大の取組みを積極的に行っているか	子ども向けと比べ、大人向けには、何を広報するのかというところが薄い。今後大人向けの事業の充実を図り、その広報先とずれがないかのチェックを行うことを含め、大人向けの広報の定義づけを行うべき。	利用者層を拡大するために、大人向けの事業の展開、広報を充実する。	昨年からはじめた「コスプレの森」*のように、大人が興味を持ち、かつ自然の家でできることを考え、新たな事業の展開を図っていく。 *コスプレをし、敷地と施設内で写真撮影を楽しんでもらう取組み。	コスプレ以外に、大人向けの事業として「指導者が楽しむ！野外活動のすすめ」を企画したが、集客が最少催行に満たず中止となった。次年度は時期や広報手段を再考したい。
(4) サービスの向上を図るための具体的手法・効果	① サービスの向上のための取組みが実施されているか ② 全体的に施設の設備や機能を活用した管理運営を行っているか	利用者ニーズへの対応といえば、基本的にアメニティが中心になるが、社会教育施設として利用者の活動成果を、フォーマットに沿った活動記録などによりフィードバックしてもらえらる仕組みを作ると良い。	団体の活動プログラム作成担当者に、聞き取り調査を行い、蓄積していくことで今後の運営に活かす。	通常アンケートとは別に、活動プログラムの担当者に聞き取りを行い、その結果をもとに今後のプログラム作成に活かす。	プログラムに関するアンケートを実施するとともに、口頭にて聞き取りを行った。結果はミーティング等でとりあげ、運営に生かしている。
(8) 府民、NPOとの協働	② 施設運営への府民参加機会が確保されているか	府民参加の機会として委員会のようなものを立ち上げるのは大変であり、多くの府民、NPOなどと連携し、開かれた運営を目指す中で、新たな共同事業を立ち上げていければよい。	府民、NPOとの連携を更に進め、より開かれた運営を図る。	府民やNPO団体との連携をさらに強化し、それぞれが主催する指導者養成事業や研修事業の誘致を行う。そこから共同で事業を立ち上げるよう連携を深めていく。	新たなNPO団体との連携は無かったが、ツリーイングやグローイングアップワイルドなど、各種指導者講習会を実施した。
III 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する事項 (2) 安定的な運営が可能となる人的能力	③ 職員の指導育成、研修体制は十分か	職員の育成については、外部の研修だけでなく部署内での研修、日頃のOJTも含めて総合的に考えると良い。また、外部の研修については、研修の目的、領域、レベルなどを整理しておき、参加すべき人を計画的に参加させ、専門性を高めることができるようにすれば良い。	日常的な研修も含め、年間の研修を系統立て、職員全体のスキルアップを図る。	職員の育成について、個々のレベルに合わせて年間の目標を設定する。内外の研修を系統立て、計画的に参加させる。参加後は他の職員全員にも伝達講習を実施し、業務に活かす。	今年度はプログラム指導や出前講座実施に向けて、所内にてスキルアップ研修を実施した。 外部研修に参加した際には、会議等で伝達講習を実施した。